

## B 個別学習 (B 1)

主な学習活動

補助線の様々な引き方を共有し、角の大きさを求める。

### 1 本時のねらい

補助線をうまく活用して、角の大きさを求めることができる。

### 2 主に活用したICT機器・コンテンツ等

Googleスライド

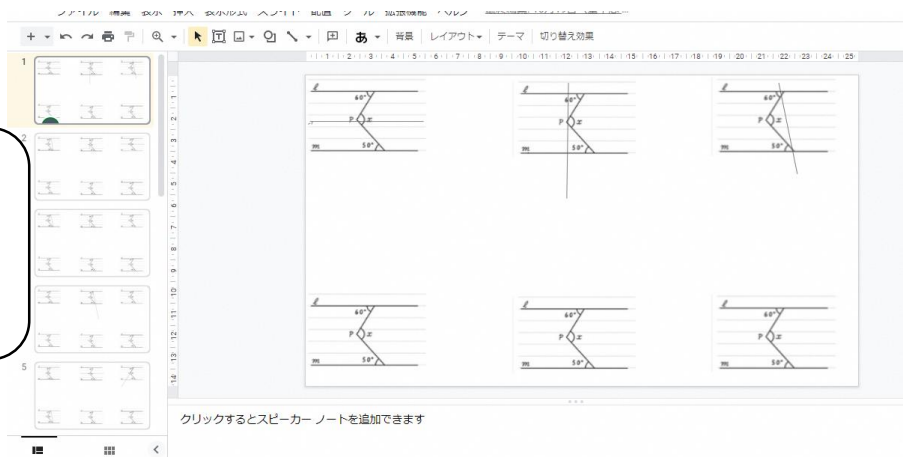
Google Classroom

### 3 参考にしてほしいポイント

Google スライドを用いることで、他の生徒の考えを随時取り入れながら角の大きさを求めることができる。

段階場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	Google スライドで、様々な補助線のひき方を共有しながら、角の大きさを求める。	生徒の考えを板書しなくても、すぐに他の生徒の考えを見ることができる。 端末上で考えを共有できるので、自分のペースで課題に取り組むことができる。

スライドを生徒の人数分複製し、他の生徒の考えを共有できるようにした。



### 4 活用効果

従来の「ワークシートに書き込む→黒板に提示→全体で共有」という流れではなく、生徒一人一人が必要に応じて他の生徒の様々な補助線のひき方を確認しながら角の大きさを求めるという流れにしたことで、生徒が自分のペースで学習を進め、角の大きさを求めることができた。

### 5 アドバイザーからのコメント

角度を求める問題で補助線をひきますが、そのひき方は生徒によって様々です。それは生徒の考え方を反映していますが、それぞれの生徒の考え方は角度の問題を媒介にしてダイナミックに変容していくので協働学習によって新しい気付きが生まれていきます。  
(東京工業大学 赤堀侃司)

デジタルを中心とした提示により、板書のあり方そのものを考え直すステップになることが期待されます。他者の考えとの比較を行うことは学びの過程にとって重要で、そこで気が付いたことを文章など自他共に把握できるような説明を残せるとより効果が期待できそうです。  
(福島大学 平中宏典)